

国境を越えて ソーシャルワーク界にShukutokuが拡散中！

ダブリン国際会議、そしてインターネットを通じて
世界へ「淑徳大学」の名前は広がります

7月4-7日にアイルランド・ダブリンで開催されたソーシャルワークの世界的なイベント「ソーシャルワーク、教育、社会開発国際会議(SWSD2018)」において、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所(ARIISW)が1月に開催した「国際学術フォーラム」が写真付きで紹介されました。



また、文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業で刊行された「西洋生まれ専門職ソーシャルワークから仏教ソーシャルワークへ: 仏教ソーシャルワークの探求」や「ビジティング・リサーチャー・プログラム」についても来場者から大きな反響がありました。アジア太平洋ソーシャルワーク学校連盟(APASWE)が設置するブースにはARIISW、そしてShukutokuの情報を求めて、アジア太平洋地域のみならずアフリカ、ヨーロッパ、南米アメリカ地域から多くの人々が訪れました。

国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)やAPASWEに共同研究や国際フォーラムとして貢献する淑徳大学に大きな評価と注目が集まっています。

海や国境を越えて学びを深める

—ソーシャルワークと「先住性 (indigeneity) 」のテーマを掲げ

現地ならではの在り方を探るウェビナー開催!—

ウェビナー(Webinar)は、インターネット(web)を介して実施されるオンラインのセミナーです。アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟(APASWE)主催ウェビナー・シリーズ『アジアと太平洋地域のソーシャルワークにおける先住性(indigeneity)』では、ARIISW は後援協力として「ZOOM」アプリケーション・アカウント利用したテクニカル・サポートを行っています。



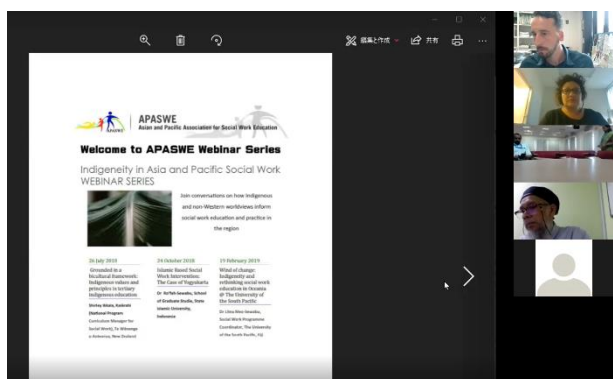
7月26日シリーズ第1回目が実施され、ニュージーランド全国大学課程カリキュラムマネージャー(ソーシャルワーク領域)(National Program Curriculum Manager for Social Work, Te Wananga o ANZ)のShirley Ikkala先生を講師として迎えました。

Shirley 先生は、ニュージーランド先住民族とヨーロッパ民族といった二重文化の枠組みの中で展開される当地のソーシャルワークと土着的価値観に関してレクチャーし、ソーシャルワーク教育と実践における現地の言語と現地の世界観と価値観の重要性を強調しました。レクチャー後、インド、オーストラリア、マレーシア、インドネシ

ア、ニュージーランド、そして日本からの約20名の参加者が30分にわたって意見を交わし議論を深めました。次回のウェビナーは10月24日(開始時間:日本時間午後1時)に予定されています。テーマは「イスラム教に基づくソーシャルワークの介入」です。

インターネットに接続されたパソコンがあれば誰でも無料でアクセスできるAPASWE

ウェビナー・シリーズを通じ、淑徳大学とARIISWの名前は世界中に広まっています。



◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。